

1 事業総括

けやき荘の利用者は、精神科領域の疾病や障害を抱える利用者の割合が常時8割近くと高い割合で推移しており、その多くが複雑な成育歴を持ち、かつDV被害経験や母子関係等の女性特有の課題を重層的に抱えている。こうした特徴を踏まえて、安心安全な生活環境の提供を最優先し、職員全体制で生きる力の回復の支援を行った。

平成28年度の入所に関しては、精神科病院から退院後すぐの入所や、けやき荘を含む複数の厚生関係施設に利用歴のあるケースが多いという従来からの傾向に大きな変化はない。該当ケースの件数・割合は減少しているものの、入院や入所施設からの申し込み後にやむをえず宿泊所等で待機して入所に至るケースも多いのが実態である。

〈参考〉退院直入所18件(全数比：40.8%→32.1%) 利用歴あり9件(全数比：24.4%→16.1%)

利用者の状況は、障害程度の重いケースや発達障害等を背景とする集団生活が苦手なケースが増加している。入所調整の段階から関係機関と連携を図り、また入所後の環境変化や治療継続に配慮するなど、主要目標に掲げる「女性特有の課題へのきめ細やかな対応」に職員一丸となって取り組んだ。自主製作品「けやきブランド」を作る所内作業、地域ボランティアを導入した多彩な「けやきプログラム」の運営にも力を入れ、日中活動の充実と生活リズムの回復を支えている。その成果もあって、平成28年度は任意・無断退所ケースが減少し、目的達成率は大幅に向上した。

〈参考〉目的達成率56.0%→76.4% (任意・無断・命令・勾留・死亡を除く退所ケースの割合)

地域関係では、地元町会主催の夏祭りや地域清掃、近隣障害者施設のイベントに参加・協力するほか、町会主催のラジオ体操に利用者・職員ともに毎朝参加し、日頃の地道な交流を続けながら地域貢献の在り方を模索している。

〔利用実績〕

(単位：人)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	56	6	4	3	7	7	4	2	5	5	3	8	2
退所者数	55	5	4	5	7	5	5	2	4	7	2	8	1
月末在籍数	平均 31.2	32	32	30	30	32	31	31	32	30	31	31	32
27年度	平均 30.8	32	32	30	32	31	29	32	32	31	30	28	31

〔退所理由〕

(単位：人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	帰 郷 ・ 親 族 等 同 居	勾 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
28年度	1	21	8	14	4	1	0	3	0	0	3	0	55
27年度	1	11	7	9	9	4	1	2	1	0	5	0	50

2 主要目標に対する成果

(1) 女性特有の課題へのきめ細やかな対応

女性福祉の視点から利用者の課題理解に努め、福祉事務所・医療機関と連携して事前見学及び入所調整を丁寧に行った。また、入所後の環境変化によるストレスの軽減に配慮するなど、利用者本人のきめ細やかな対応により任意・無断退所の減少につながった。

(2) 施設全体で支援する体制の継続

女性特有の課題に着目する利用者理解を共通認識として、職員間の連携によるチームによる支援体制を徹底している。情報共有の意識が高まり、些細な利用者状況の変化を全員が共有することでトラブル予防や疾病への早期対応ができたほか、職員の抱え込み防止にも効果を上げている。

(3) 充実した所内作業とプログラムの実施

基本的な生活習慣の回復、生活意欲・社会参加意欲の向上にむけた集団プログラムとして定着した。

(4) 地元町会を中心とした地域との良好な関係の継続

地域行事に積極的に参加・協力したほか、地域住民を招いた公開講座を開催した。

3 運営管理	
<p>(1) 日常の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急入所の需要に応え迅速に対応した。(13人) ・毎朝の引継会議で利用者の細かな状況変化等の情報共有を徹底しチーム支援を推進した。 ・個別自立支援計画に基づく計画的な支援を実践し、職員会議等で進捗状況を確認した。 <p>(2) 自立促進・転出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所内作業(手芸品作製)、「けやきプログラム」(教養講座等)による日中活動の機会を提供した。 ・ステップハウス2室(4人)、社会復帰促進事業(3人)を活用して地域生活移行訓練を行った。 ・バックアップセンター利用者支援事業(住宅・心理・法律)を積極的に活用した。 <p>特に心理相談は原則入所者全員に実施し、利用者理解と支援計画の策定・見直しに役立っている。</p> <p>(3) 給食関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査(年2回)の献立への反映やアレルギー、治療食等にもきめ細やかに対応した。 ・給食委託業者との定期連絡会等を通じて衛生管理を徹底し安全な給食提供を行った。 ・誕生日会食を新規導入した。祝福されることを通じて自己肯定感の向上に寄与した。 <p>(4) 諸行事 ・年間行事計画に基づく内容・回数を実施した。</p> <p>(5) 消防・防災等 ・防火防災訓練(震災想定2回、夜間想定3回、放水訓練1回、水害想定1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常災害用物品の定期入替を行い、事業継続計画(BCP)に水害対策を追加した。 <p>(6) 職員会議等 ①定例会議 朝の引継会議(毎日)、職員会議(月2回)、給食連絡会(毎月)</p> <p>②職員育成 事例検討会(5回)に外部有識者を招聘し職員資質の向上に努めた。</p>	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・町内老人会主催のラジオ体操への参加や所内TV体操の励行を推進した。 ・看護師・栄養士連携による血圧・体重測定(毎月)、健康教室(年10回)により健康管理意識を醸成した。 ・定期健診(年2回)、インフルエンザ予防接種等により感染症対策を実施した。 ・クリーンデー(月1回)で各居室の利用状況、衛生状態を確認し適宜必要な支援を行った。 ・大規模改修後8年を経過した建物設備の維持管理に努めた。 	
5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣障害者施設の福祉ネットワークに参画し、施設行事に参加・協力した。(あゆみ祭り等) ・地域センター祭り(3回)や法人他施設の地域行事等で「けやきブランド」の展示・販売をした。 ・地元町会の夏祭りに出店団体として参加・協力した。(利用者・職員・実習生合わせて26人) ・地域避難所開設訓練、一斉地域清掃に利用者と職員で参加した。 ・地域住民も対象とした公開講座を開催(年2回)し11人の参加があった。 ・施設連絡会を福祉事務所向けと、新たに関係医療機関(15機関25人)を対象に開催した。 ・社会福祉実習生(4校 計4人)と特入厚短期派遣研修生(3人)を受け入れた。 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
<p>評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構 実施期間：H28.9.29～H28.11.18</p>	
<p>全体の講評： 特に良いと思う点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 栄養士と協力し、食事をめぐる支援に力を入れている ② 地域での暮らしや行事への参加等により、回復力を高めている ③ 「けやきプログラム」の実施、「けやきブランド」の制作などにより自立を支援している <p>さらなる改善が望まれる点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域開放室の更なる活用を検討してほしい ② 第三者委員のさらなる活用を期待したい ③ 自己肯定感の深まりを目指す支援技術など、さらなるスキル向上に向けた取り組みを期待したい 	<p>施設コメント：</p> <p>利用者アンケートによる総合評価は満足・概ね満足が6割を超える。チーム支援など、「女性特有の課題へのきめ細やかな対応」をはじめ、けやき荘の良さ・強みは更に発展させていきたい。改善が望まれる点に挙げられた第三者委員は、平成29年度から女性委員が加わる。その他は、地域貢献の在り方や人材育成を踏まえて十分に検討して取り組みたい。</p>

